



山にみどり、川に清流、谷に風、空に星、自然と和して発展するまち、人のくらし、みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの

手をむすんで

H25.9

新アジェンダを作成!!

おもいをカタチに!～新たな一歩を

『アジェンダ21ながのー環境行動計画ー2013』が出来るまで

環境問題の解決には市民・事業者・行政のパートナーシップのもとに環境保全活動を展開することが必要不可欠ことから、ながの環境パートナーシップ会議が設立されました。そのための行動計画として平成15年3月に「アジェンダ21ながの」が策定されました。策定から10年が経過し、社会の中に環境に対する意識は深く浸透してきましたが、長野市環境基本計画の改定があり、地球温暖化の深刻化や放射能汚染など環境問題の様相の変化などにより見直しが必要になりました。そこで、平成23年9月「新アジェンダ策定プロジェクト」を立ち上げ、会員や市民の意見が反映された「アジェンダ21ながのー環境行動計画ー2013」を策定しました。



新アジェンダ策定プロジェクト会議

ビジョン実現に向けて

金井三平代表理事

「環境から拓く新たなゆたかさへの道」として今「環境」は様々な分野に共通するテーマとなっています。

私たち「ながの環境パートナーシップ会議」が、環境保全活動の中核となり新たなアジェンダに掲げられた「ビジョン」実現のために、市民・事業者・行政の協働・共創により「環境先進都市ながの」として、長野市の特色を生かした豊かな地域社会を創っていくことを目指します。

2年の月日を振り返って

高木直樹プロジェクトリーダー

アジェンダ見直しに2年もかかってしまいました。

過去10年の振り返り、アジェンダと長野市環境基本計画の関連性などの整理が大変でした。振り返ってみたら、ながの環境パートナーシップ会議はそれなりの役割を果たしてきたことが再確認できました。新しいアジェンダのもとに、今後は更に大きな役割を果たせることを確信しています。

皆さん、まずは読んで下さい!

太陽エネルギー普及促進

【太陽エネルギーの学習会等開催、イベント参加による再生可能なエネルギーの普及】

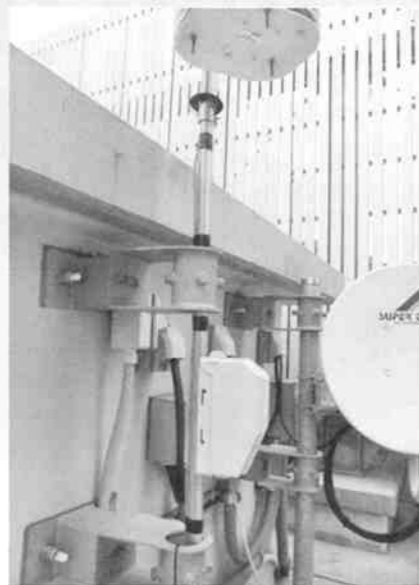


リーダー：田中 昭
人数：7名
25年度予算：10万円
イベントに参加し、太陽エネルギー促進を目指し、チームメンバー（男4、女3名、参加企業2社）が一丸となつてがんばっています。メンバーを増やしパワーUP。乞う参加者！

GLOBE

【ウェザーステーションの管理と子ども達の地球温暖化対策を支援】

リーダー：草間理恵子
人数：4名
25年度予算：1万円
等温地図等で、地球温暖化の見える化を行い、実感してほしい。世界と日本の環境について知ってもらふきっかけを作りたい。そのベース作りを現在しています。



子どもの環境学習支援

【こどもエコクラブの学習交流会への参加・学校での環境学習支援】

リーダー：渡辺隆一
人数：4名
25年度予算：10万円

環境活動が地域に根づくためには、子どもから大人までの継続的な参加の仕組みが必要。小学生主体の子どもエコクラブから中高大学生（ユース）のための環境学習支援として「地域の自然を生かした伝統的な生活」をテーマに近郊の山村で国際ユース環境会議を毎年実施。



プロジェクト プロフィール

プロジェクト名、活動内容、リーダー、チーム人数、25年度予算、リーダーのメッセージ

生態系豊かな、水に親しめる川づくり（水環境保全）

【川中島町今井団地内水路の整備、河川の水質調査と観察会の開催】

リーダー：村松聖夫
人数：7名

25年度予算：11万1千円

数年前から研究・検討していた川中島町今井団地内「せせらぎ川」水路が住民の強い要望もあり、この秋頃には親水型河川改修工事が実現へ。池・河川等の観察会は、大盛況で、大好評。



生ごみ削減・再生利用

【イベントやセミナーの開催、生ごみ堆肥化等による生ごみ削減】

リーダー：河西弘明
人数：8名

25年度予算：25万円

市の方針である堆肥化等による生ごみの自家処理を進めるには、地域住民の協力が欠かせない。キャラバン隊として2つの住民自治協議会との協働により段ボールによる生ごみの堆肥化を推進。今後の更なる自治協の参加を期待。



市民の森づくり

【ボブスレー・リュージュパークの森林整備、イベントの開催、第2の市民の森実施計画】

リーダー：堀池政史
人数：21名

25年度予算：33万4千円

「市民の森づくりプロジェクト」が大きく広がっていかない状況に苦慮している。活動の内容をもう一度精査し、多くの団体との協働に心がけて幅広い活動として行きたい。



ながのカーボンオフセット

【環境に優しい地域社会の構築への協働の仕組みづくり】

リーダー：小山勝宏
人数：1名

25年度予算：2千円

カーボンオフセット(排出権取)は、CO₂の削減量を取引するだけの活動ではありません。この考え方を応用すれば、誰かが取組んでいる環境保全活動を、間接・直接的に不特定多数の人々が応援する事が出来ます。つまり、新しいスタイルの環境コラボレーションです。

スキー場跡地の自然復元

【聖山パノラマスキー場の跡地の自然を復元するための現地調査とネットワークによる環境保全】

リーダー：遠藤和夫
人数：7名
25年度予算：11万3千円

人間の都合で自然は時代と共に様変わります。スキー場跡地は人工的な草原ですが、かつてこの地域には林場（まぐさば）があったし、聖山はブナ林に覆われていた。私たちの目標は、縄文時代から継承されてきた「多様な生き物との共生の知恵」を、将来の世代に引き継ぐこと。



レジ袋使用削減

【毎月5日のノー・レジ袋デーの取り組みや普及、レジ袋持参率調査】

リーダー：渡辺ヒデ子
人数：8名

25年度予算：22万5千円

いつでもどこでも誰もが出来る環境活動、それがレジ袋削減。使い捨ての代名詞になっているレジ袋、市民団体との協働によりマイバッグ持参率80%以上を目指して活動推進中！！



光害対策

【夜空の明るさ調査、100万人のキャンドルナイトイベントの開催による光害の啓発】

リーダー：高野勝人
人数：8人

25年度予算：13万9千円

今年度は、光害対策チームの目玉であった「キャンドルナイトイベント」を諸事情により開催しません。代わりに「光害シンポジウム」への参加を予定しています。また、長野駅周辺の照明や光害の調査を行います。



**ながの環境パートナーシップ会議
活動記録
(平成25年5～8月)**

全体の活動

- ・25年度総会 6/23
- ・キャンドルナイトコンサート参加 7/5
- ・信州環境フェア参加 8/24・25
- ・理事会4回(5/15、5/29、6/13、7/25)

チーム毎の活動

- ・光害対策 5回
(例会、キャンドルナイトコンサートに参加)
- ・水環境保全 4回
(例会、懇親会)
- ・生ごみ減量・再利用 11回
(例会、信州環境フェア参加 他)
- ・レジ袋使用削減 14回
(例会、毎月5日ノーレジ袋デー、信州環境フェア参加 他)
- ・市民の森づくり 13回
(例会、趣味の林業講座、市民の森の整備 他)
- ・太陽エネルギー普及促進 8回
(例会、イベント参加他)
- ・子ども環境学習支援
(準備例会10回、ユース国際環境会議8月)
- ・ウェザーステーション 2回
(機材確認)
- ・スキー場跡地の自然復元

《会員募集中》

一緒に長野の環境保全活動をしてみませんか。随時受付けています。年会費500円 詳しくは下記事務局まで



《発行》
ながの環境パートナーシップ会議
市民、事業者、行政の協働
(パートナーシップ)により
環境保全に取り組んでいます。

《編集》
事務局
〒380-8512
長野市大字鶴賀緑町1613
長野市環境政策課内
TEL 026-224-5034
FAX 026-224-5108
E-mail:kankyo@city.nagano.lg.jp
URL http://nagano-ep.net/



ごみ削減のための行動としてレジ袋削減チームが活動を始めた10年前、長野市のマイバッグ持参率は10%以下でした。平成25年3月の「千曲川流域調査」では約50%弱(県の調査では60%)まで向上しました。市民の環境意識は確実に変化しているといえます。

この10年、私たちはさまざまな団体、組織と連携してレジ袋の削減に取り組

んできました。平成16年9月からは毎月5日を統一行動日「ノーレジ袋デー」として市民・事業者・行政の役割を定めて協定を結び啓発活動を続けています。また、平成21年度には、商圏が重なる広域の取り組みとして、佐久市から飯山市まで13市町村の行政・消費者団体、事業者からなる「千曲川流域レジ袋削減推進協議会」を設立しました。

その中で長野市は、上田市・千曲市・須坂市とともに幹事市として、事業者への働きかけ、強化キャンペーンの実施、持参率調査、全体会、情報交換などに中心的な役割を果たしています。

例年実施している今年の消費者団体との意見交換会は、9月10日に実施し、「チームが何をやっているのか顔が見えない」「担当者が代わり、話を通じない」など厳しい意見や「事業者との懇談会をもっと実施して欲しい」「10月の強化キャンペーンは歩行者天国で

「伝える／繋がる／行動する」を合言

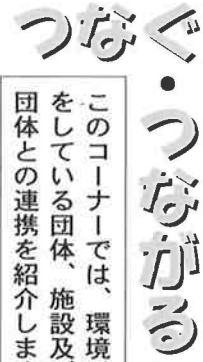
レジ袋削減チームは、今後も様々な団体・組織・行政・事業者と連携してまいります。

年9月14日に「レジ袋無料配布中止」を提唱し、今年4月からの実現を目指しました。しかし、また、長野県全域では事業者の足並みがそろわないために一部の地域と事業者の実施にとどまっています。

多様な連携を力に

目指して

マイバッグ持参率80%を



このコーナーでは、環境活動をしている団体、施設及び他団体との連携を紹介します。



平成24年10月強化キャンペーン JR長野駅

啓発活動をしては「といった積極的な提案も出されませんでした。チームとして、これらの意見をしっかりと受け止めて活動を進めていきたいと思っています。

長野県は昨

「信州環境フェア」今年も出展

8月24・25日、ビッグハットで開催された信州環境フェアに、ながの環境パートナーシップ会議のPRを目指して参加。1日目は生ごみチーム、2日目はレジ袋使用削減チーム、全体の活動紹介は2日間。いずれも子どもに大人気の「えこねこ」の応援を得て、工夫を凝らしたブースは、親子連れなどで大盛況でした。生ごみチームはステーションで楽しい生ごみ教室も実施し、生ごみの減量をアピールしました。

葉に、持参率80%を目指して活動していきます。

レジ袋使用削減
チームリーダー 渡辺ヒデ子